

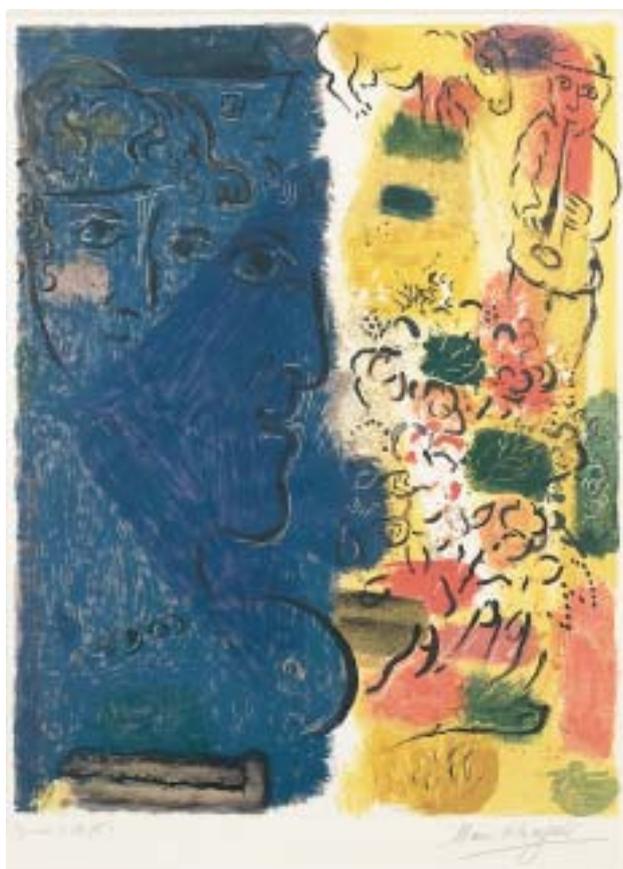
石川県立美術館だより

平成16年12月1日発行 第254号

特集 版画の魅力

シャガール・ミロ・東山魁夷

11月26日(金)~12月23日(木・祝)会期中無休



花の中の自画像 シャガール 金城短期大学蔵



ミロへの賛歌3 ミロ 富山県立近代美術館蔵

目次

天神画像と文房具	2	ミュージアムレポート、貸出中の所蔵品 ...	5
大乘寺の文化財	2	企画展示室、各地の展覧会	6
版画の魅力、鑑賞ファイル	3	文化財現地見学報告、12月の行事案内.....	7
常設展示室 主な展示作品	4	所蔵品紹介、次回の展覧会	8
企画展TOPIC(きものの美)	5	ミュージアムショップ通信	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

常設展示室（前田育徳会展示室）

特集

天神画像と文房具

11月26日(金)~12月23日(木・祝)

加賀藩主前田家は、三代藩主利常の頃より「先祖は菅原道真である」と公言するようになり、藩政期を通して「天神さま」に深い崇敬を寄せました。利常は京都・北野天満宮を模した小松天満宮を建立し、五代綱紀は道真関係資料を積極的に収集します。また、道真没後五十年毎に開かれる大萬燈祭に際しては、綱紀・八代重熙・十一代治脩・十三代斉泰が北野天満宮へそれぞれ太刀を奉納し、その境内には斉泰・十四代慶寧・十五代利嗣・大聖寺藩十四代利隆によって明治時代に建立された石碑が現在も残されています。このように前田家は先祖神として「天神さま」を崇め、そのため前田育徳会には道真関連資料が現在も多く残されているのです。本特集では、その中から道真の姿を描いた「天神画像」と、「学問の神」でもある道真にちなんで、育徳会に伝わる文房具を紹介します。

「天神画像」にはいくつかの種類がありますが、いずれも道真に関する説話に基づいたものです。大宰府へ送られる船の中で、座ろうにも敷物もないため、仕方なく丸めた縄の上に座ったところ、あまりの惨めさに怒りが込み上げ、その表情を露にしたという「縄敷天神画像」。道真が中国へ渡り法衣を受けたという、室町時代の禅僧の間で語られる説話に基づいた「中国風の装束を身に付け、梅の枝を持つようになった「渡唐天神像」などです。これらの姿は、「天神さま」が多様な神として親しまれた証であり、前田家が先祖として「天神さま」を崇めた理由も、こうした変化自在な姿に対する憧れだったのかもしれない。今回は六つの天神画像を紹介いたします。

文房具は大変小さなものですが、いずれも精緻なつくりとなっており、歴代藩主の愛用品であったことがうかがえます。中国から舶載されたものがほとんどで、大理石・象牙・瑪瑙といった贅沢な素材が使用されています。硯・筆架・文鎮・水滴など三十八点を紹介します。

加賀の古刹として知られ、曹洞宗第二の本山とも言われる大乘寺の文化財を紹介します。現在、金沢市長坂町にある大乘寺は、加賀の守護であった富樫家尚の創建とされています。鎌倉時代末の弘長元年（一二六一）説には三年とも伝えられます。現在の野々市町に一寺を建立し、真言僧の澄海を住持させたことに始まると伝えられています。澄海は後に永平寺より徹通義介を招き、この寺を禅寺として開山します。こうして大乘寺は、永平寺以外では最初に建てられた曹洞宗寺院であることから、「曹洞宗第二の本山」とも称されることになりました。その後、永光寺・総持寺の開山でもある大乘寺二世瑩山紹璣、三世明峰素哲の時期に基礎が築かれ、室町時代には足利幕府の祈願寺として寺領・屋敷が安堵されました。しかし、「百姓の持ちたる国」とも呼ばれたように、加賀では国主の富樫氏が一向一揆によって倒され、その保護者を失うことになったばかりでなく、一揆を平定した柴田勝家の兵火によって、堂宇も焼失してしまいました。

その復興は、加賀藩の時代になって行われました。二代藩主・前田利長の臣下、加藤重康によって、金沢木の新保（現在の金沢市本町）に移転・再興されたのです。さらに慶長六年（一六〇一）には加賀藩の老臣で本多家の家祖である政重により、本多家下屋敷の隣接地である石浦大乘寺坂（現在の本多町）に移転します。今でも県立工業高校から石引台地へ登る坂を大乘寺坂と呼んでおり、その名残をとどめています。

二十六世月舟宗胡は大乘寺中興の祖といわれ、本格的な復興が始まります。宗規の回復と移転計画が進められ、二十八世明州珠心の時、藩より与えられた現在の地に移転し、今日に続くことになるのです。

現在、当館に一括寄託される大乘寺の文化財は、古文书・絵画・工芸の類などですが、今回はそれらのうちより、『佛果碧岩破関撃節』（一夜碧巖集）をはじめ、重要文化財五点を含む、二十一点を展示します。

常設展示室（第2展示室）

特集

大乘寺の文化財

11月26日(金)~12月23日(木・祝)



大乘寺総門

常設展示室 (第4展示室)

特集

版画の魅力

シャガール・ミロ・東山魁夷

11月26日(金)~12月23日(木・祝)



箱舟の鳩 シャガール
富山県立近代美術館蔵



男の横顔 タマヨ
金城短期大学蔵

描画、製版、刷りという3つの行程を経てイメージが具現化される版画は、直接に描かれるタブローとは異なり、素材や技術上の制約が作品に大きく関わります。しかし、この制約が、制作者も思わぬ効果を生みだし、尽きせぬ魅力を作品に与える源泉ともなっているのです。今日では、その技術は発展し、製版の段階においては最新のテクノロジーをも加味し、実に様々な表現が可能となつていきます。

そして、ある枚数同一のものが刷られる版画は、紙という材質と手頃なサイズにより、手に持って鑑賞しうるという親密さを持ち、私たちの日常生活において身近な絵画の1ジャンルとして広く普及しています。

本特集では、多岐に渡る版画技法の中から、エッチング、アクアチント、リトグラフを中心にした解説パネルと資料及び、制作に使う道具もあわせて展示します。様々な技法と、その制作プロセスを理解していただくとともに、生涯に数千点の版画作品を制作したシャガール、ミロなど西洋の作家の作品に、当館所蔵の東山魁夷をはじめ、石川県ゆかりの作家の作品をご覧いただくことができます。

作家がそれぞれに技法を駆使し、その持ち味を生かしながら表現しています。高度な版画技術によって制作された作品をじっくり鑑賞していただき、版画に対する興味・関心をさらに持っていただければ幸いです。

主な展示作品

ミロへの賛歌3 (詩画集「ミロへの賛歌」より) ミロ
日本語 (詩画集「手づくり諺」より) ミロ

箱舟の鳩 (版画集「バイブル」より) シャガール
以上3点 富山県立近代美術館蔵

花の中の自画像 シャガール
男の横顔 タマヨ

海山十題 以上2点 金城短期大学蔵
東山魁夷

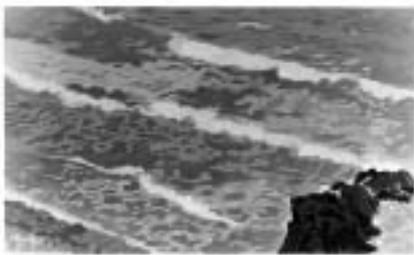
鑑賞ファイル No.4

版画の限定番号



今月の特集「版画の魅力 シャガール・ミロ・東山魁夷」では、版画作品がずらりと展示されています。版画制作のすべての課程で原作者の版による表現意図が貫徹された版画のことを「オリジナル版画」といい、通常、画面の右下に作家のサイン、左下に限定番号が書かれています。この限定番号は、作家の承認なしに版画が複製されるのを防ぐため、版画の数量管理の必要から考え出されたものです。限定部数を分母とし、分子に一連の当該番号を記入します。写真 26/70は限定部数70部のうち26番ということになります。ただし、この限定番号は必ずしも刷り出された順序を示しているものではありません。

この限定番号の他にも、写真 のようにE.A[エプループ・ダルティスト Epreuve d'artiste 仏](A.P[Artist's proof]と書かれることもある)と記入されるものもあります。これらは作家の見本刷りや保存用としてオリジナル版画の他に少数刷られる版画のことを意味する記号です。



海山十題「潮声」 東山魁夷



常設展示室

主な展示作品

11月26日(金)~12月23日(木・祝)

●=国宝 ○=重要文化財 △=重要美術品
□=石川県指定文化財

前田育徳会展示室

特集 天神画像と文房具
胞輪天神像
渡唐天神像 月儂筆

瑪瑙石硯

銅獅子筆架

象牙車輪文鎮

銅鍍金翡翠形水滴

第1展示室

●色絵雉香炉

色絵雌雄香炉

野々村仁清
野々村仁清

第2展示室

色絵布袋図平鉢 古九谷

色絵鳳凰図平鉢 古九谷

青手樹木図平鉢 古九谷

特集 大乘寺の文化財

佛果碧巖破閑撃節 上・下

羅漢供養講式稿本断簡

韶州曹溪山六祖師壇經

三代嗣法書 徹通義介・瑩山紹瑾・明峰素哲

支那禅刹図式

第3展示室(油彩画・彫塑)

油彩画

コレクション・囲まれた男

女神

蜘蛛の糸

紫糸のコスチューム

しおさい

熱叢夢

彫塑

折られていた花

佛果碧巖破閑撃節上 道元



ミゼレレ

第4展示室(油彩画・彫塑)

特集 版画の魅力
3ページをご覧ください。

中村晋也

第5展示室(工芸)

陶磁

青釉暮色

漆工

双魚飾皿

染織

遊童図

金工

直刀 七星剣写

木竹工

櫻造盛器

人形

木彫加彩人形「つつ井筒」

截金

木彫截金彩色合子「西」

山溪清秋図

秋景溪流図

窓辺の静物

生生

北風の浜

能登海浜加賀山麓図

北出不二雄

三谷吾一

木村雨山

隅谷正峯

川北良造

下口宗美

西出大三

木村杏園

越塚友邦

戸田博子

仁志出龍司

平桜和正

山脇晴雲

一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	
観覧料			



山溪清秋図 木村杏園



青釉暮色 北出不二雄



蜘蛛の糸 鴨居 玲

ミュージアム レポート

ミュージアムコンサート

9月26日(日)「藤原真理 チェロ・リサイタル」
日本を代表するチェリストの藤原真理さんをお招きしてのコンサートでした。当館では平成6年以來6度目の公演で、当館の雰囲気大好きとおっしゃる藤原さんの演奏に参加者は大いに魅了された様子でした。

パツハの「無伴奏チェロ組曲」は、何曲かを、解説を交えながら弾きくらべることで、わかりやすく、親しみやすいコンサートとなりました。また、黛敏郎「BUNRAKU (文楽)」は、まるで和楽器を弾いているかとの錯覚を覚えるような音色を楽しむことができました。

1階ロビーでは、開演前の時間を利用してミニ・コンサートも行われました。入場整理券を必要としない企画で、偶然居合わせた参加者からは、とても幸運だったとの感想が寄せられました。



企画展TOPIC

「きものの美 - 新春を寿ぐ - 」後編

英国皇太子妃を魅了した着物

それぞれの国の伝統衣装というものは、当然その国の人々が着るものですから、衣装の形や色などは、着用する人々の肌や髪の色、顔つき、体型などにふさわしいものです。

近頃の日本人の体型は、欧米型の生活が浸透したせい、ずいぶんと変わってきているようですが、やはり着物は日本人のすっきりとした顔つきや体型に、よく似合っていると思えます。最近ちょっとしたブームで、ゆかたを着る若い女性が増えて、それとともにもっと気軽に着物を着てみようという女性も、年齢を問わず増えているようで、伝統が廃れつつある中で大変喜ばしいことです。

さて、「sake」(酒)のように、日本語の音はそのまま、世界共通の単語になったものは少なからずありますが、「kimono」(着物)という言葉もその一つです。日本以外の国の人々から見ても、着物が独自の魅力を放つ衣装であることを示していると言えます。揺れる袖が優美でかつ、畳むと完全に平面になってしまう合理性を兼ね添えた着物は、時代や国境を越えて人を惹き付けるのでしょう。

友禅の人間国宝、羽田登喜男さんご一家は、平成8年にフランスの染織の町リヨンで、展覧会を開いて好評を博しましたが、ご子息の羽田登さんのお話によると、タイトルを決める際にフランス側から、展覧会の内容がすぐに分かるので、「着物」と言う言葉を入れるべきだという申し出があったそうです。羽田さんご一家の華麗な友禅の着物は、この異国情緒あふれる言葉とともに、リヨンの人々に強い印象を与えたことでしょう。

今回展示される作品の中に、羽田登喜男さんの代表作の一つである友禅振袖「松韻鶴浴文」があります。これはイギリスの故ダイアナ元妃が皇太子妃として来日した際に、京都市からプレゼントしたものと同一作品として、つとに知られています。柔らかな朱色の地に鶴や松、柘榴など瑞祥を表す文様が描かれた、大変華やかな振袖です。

この振袖が贈呈されたとき、彼女はその場で着物を羽織りました。公衆の面前で衣服をまとうということは、まずあり得なかった彼女の珍しいエピソードです。前例を覆すほどに英国の皇太子妃を魅了した着物を、ぜひご覧になって下さい。

(寺川和子 学芸主任)

「きものの美 - 新春を寿ぐ - 」の会期は
2005年1月4日(火)~1月30日(日)です。



部分

友禅振袖「松韻鶴浴文」 羽田登喜男

貸出中の所蔵品

蒔絵菊慈童図薬籠箱	伝五十嵐道甫
蒔絵脇息図十二律箱	伝五十嵐道甫
蒔絵和漢両景図硯箱	五十嵐様式
蒔絵鹿に紅葉図硯箱	五十嵐様式
蒔絵巖浪図硯箱	伝五十嵐道甫
蒔絵竹垣に秋草図歌書箱	伝五十嵐道甫
計6点	

展覧会 五十嵐派の蒔絵
会 期 平成16年12月14日(火)
~平成17年2月13日(日)
会 場 東京国立博物館

色絵雲錦手杯台	尾形乾山
計1点	

展覧会 秋季特別展「乾山 幽邃と風雅の世界」
会 期 12月15日(水)まで
会 場 MIHO MUSEUM

企画展示室

アート・ナウKANAZAWA

第43回北陸中日美術展

11月28日(日)~12月8日(水)第7~9展示室)

部門 平面・立体・工芸

現代美術の創造を目指す本展は、新人作家の登龍門として幾多の新進作家を送り出しており、個性豊かな力作が数多く出品されます。

全国から応募のあった作品から、美術評論家・針生一郎氏、多摩美大教授・建畠哲氏の両先生の審査による、入賞・入選作品約140点を展示します。

入場料 一般・大高生 700円(500円)

中学生以下無料

()内は前売り・団体料金

当館友の会会員は、会員証提示により団体料金になります。

連絡先 金沢市香林坊2-7-15

北陸中日新聞事業部 ☎076-233-4642

第50回記念 一陽展 金沢展

12月11日(土)~15日(水)第7~9展示室)

昭和30年7月に鈴木信太郎・野間仁根・高岡徳太郎らを中心として、一陽会は「清新にして深奥なるものの創造に勉励し、新時代の美術を推進せん」「尖锐なる未完成こそ推薦」をスローガンに掲げ組織され、本年度創立50年を迎えました。表現様式のいかに問わず多彩な作家群を擁し、抽象と具象の作風が競合する展覧会です。今秋、東京都美術館で開催された第50回記念一陽展の出品作品より選抜された基本作品と北陸支部地元作品の油彩画・アクリル画・版画・彫刻の100余点を展覧します。ベテラン作家の秀作から尖锐な若手作家の力作をご鑑賞ください。

主な出品作家

[絵画・基本作品]

北山泰斗、棚瀬修次、森 秀雄、坪井正光、
沢オイ(金沢出身) 畠中陽一(輪島出身)

[彫刻・基本作品]

小池郁男、阿部雪子(金沢出身)

[絵画・地元作品]

大場吉美、岩永勝彦、酒井幸雄、佐川文字子、
野中未知子、判 三教、安田 淳

[彫刻・地元作家]

大鎌英治

入場料 一般700円(500円)大学生500円(300円)

高校生以下無料 ()内は団体料金

当館友の会会員は会員証提示で団体料金
になります。

連絡先 金沢市粟崎町2-86

大場吉美方 一陽会北陸支部事務所

☎076-238-3096

第89回公募写真展研展

12月18日(土)~22日(水)第7展示室)

東京写真研究会が主催する研展は、研究会(関東、中部、関西、北陸の4支部)の会員と、一般公募の2部門で構成され、約200点が展示されます。北陸から会員の部では、会長賞に寺井明夫、研展奨励賞に大橋京子、村瀬栄一、橋端末治、公募の部では、東京都知事賞に荒川良一、共同通信社事業本部フォトセンター長賞に宮本玲子、東研賞に富田晃子、東研奨励賞に山上巖、津田朝子の各氏が受賞しました。

入場無料

連絡先 金沢市野町4-9-13 内島一郎

☎076-241-2279

第14回石川独立DO展

12月18日(土)~22日(水)8・9展示室)

石川独立の前身は、昭和54年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足しました。日本のフォービズム(野獣派)の流れを汲む独立展は、自由で個性強烈な作家を輩出していることで注目を集めています。

出品予定作家

大泉佳広、大西佑治、大部雅子、金子顕司、
京岡英樹、桑野幾子、小森初香、指江昌克、
佐藤仁敬、進地美穂、田井 淳、南城 守、
西又浩二、堀 一浩、前田さなみ、三浦賢治、
水野寿代、山田裕之

入場無料

連絡先 金沢市小立野1-13-4 山田裕之

☎076-221-7792

各地の展覧会 12月

開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

佐伯祐三展 12/12まで
大阪市立近代美術館(大阪市・06-6208-9096)

20世紀美術にみる人間展 12/12まで
三重県立美術館(津市・059-227-2100)

マン・レイ展「私は謎だ。」 12/15まで
山梨県立美術館(甲府市・055-228-3322)

「草間彌生 - 永遠の現在」展 12/19まで
東京国立近代美術館(千代田区・03-5777-8600)

マルセル・デュシャンと20世紀美術 12/19まで
国立国際美術館(大阪市・06-4860-8600)

古代都市誕生 - 飛鳥時代の仏教と国づくり - 12/20まで
大阪歴史博物館(大阪市・06-6946-5728)

江戸絵画への熱いまなざし 12/26まで
愛媛県美術館(松山市・089-932-0010)

文化財現地見学報告

今回の文化財現地見学は「お伊勢参りと三重の芸術探訪」と題し、参加人数は40名と例年より少ないものの、10月30日(土)、31日(日)の2日間にわたって実施されました。

10月30日(土)

バスに揺られること4時間半、最初の見学地である高田本山専修寺(津市)に到着。如来堂と宝物館の2箇所をお寺の方にご案内いただき、丁寧な説明を受けました。境内も広く、宝物館には親鸞聖人の直筆の書状など、多くの文化財が所蔵されており、見応えがありました。もう少し、境内を散策する時間が欲しかったように思われます。

お昼もだいぶまわっていたので、ホテルに着き早速昼食タイム。美味しかったとの感想をいただきました。空腹を満たした後は、三重県立美術館(津市)へ。学芸員から、美術館の概要などお話しいただき、現在、開催中の展覧会「20世紀美術にみる人間展」を鑑賞。日本画・油彩画・版画・彫刻をテーマ別にそれぞれ展示され、展示室も多く、鑑賞には約1時間かかりました。

さて次は、斎宮歴史博物館(明和町)へ。学芸員から開催中の特別展「百人一首の世界」を丁寧に説明していただきながら、「時代不同歌合絵巻」や「百人一首抄」などを観賞。その後、映像展示室で斎王が都から伊勢の斎宮に到着するまでをハイビジョン映像で再現した「斎王群行」を鑑賞しました。約600年間行われたという儀式が考古学的資料や、コンピューターグラフィックを使い、リアルに再現されていました。

1日目の見学を終え、今晚1泊予定の伊勢シティホテルへ。皆様お疲れ様でした。

10月31日(日)

8時にホテルを出発。まずは伊勢神宮・外宮(伊勢市)へ。外宮は、豊受大御神をお祀りしています。正殿の千木は外削ぎ 垂直切 になっています。雨上がりのしっとりとした趣の参道を歩き、すがすがしい気持ちで参拝できました。別宮である、多賀宮・土宮・風宮まで足を伸ばしゆっくりできました。

伊勢志摩スカイラインを走り、朝熊山の山頂にある展望台へ向かいましたが、あいにくの霧で360度のパノラマが拝めませんでした。う～ん、残念!その後、伊勢神宮の鬼門を守る寺として、神宮の奥の院ともいわれている金剛證寺(伊勢市)に到着。国宝線刻阿弥陀三尊来迎鏡像、国宝経筒など多くの美術品・文化財を所蔵しています。お寺の方から親切で丁寧な説明を受け、宝物館と本堂の内陣を鑑賞しました。

次は伊勢神宮・内宮(伊勢市)へ。内宮は天照大御神をお祀りしており、正殿の千木は内削 水平切 になっています。バスから降りてすぐ、宇治橋のもとで記念撮影。昼食をとる予定の「岩戸屋」のガイドとともに宇治橋を渡り、説明を受けながら正宮まで歩きました。連日の雨で五十鈴川が増水していたため、川辺に降りることができず残念でした。

お昼は伊勢名物の伊勢うどんと手こね寿しをいただいた後、おかげ横丁をぶらぶら。皆様お土産をたくさん買っていらっしゃいました。

さて、最後の見学地である神宮美術館(伊勢市)へ。日本芸術院会員や、重要無形文化財保持者などの美術・工芸家から神宮に奉納された作品を展示している美術館です。学芸員による説明を受けながら企画展「神宮所蔵名品展」を鑑賞しました。

今回の見学コースは三重県ということもあり、朝は7時の出発となりました。天候はあいにくの雨模様でしたが、おおむね予定時刻通りに見学地を回ることができました。バスでの移動時間が長かったのですが、参加者の皆様には疲れた様子もあまり見受けられず、笑顔で帰られる方が多かったので安心いたしました。

終わりに、ご参加の皆様と各見学地でお世話くださいました関係各位に深く感謝申し上げます。



伊勢神宮・内宮 宇治橋前

12月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
12/4(土)	キッズ プログラム	鑑賞講座「版画の魅力」 (吉村尚子 学芸主任) 小学生対象の講座です。常設展示を鑑賞しながらの講座になります。	講義室
12/5(日)	月 例 映 画 会	石の文化(29分) 縄文土器(24分)	ホール
12/11(土)	美 術 講 座	藤島武二 人と芸術 (織田春樹 学芸主任)	講義室
12/12(日)	ビデオ鑑賞会	国宝11 平等院鳳凰堂・浄瑠璃寺(29分)	ホール
12/18(土)	ギャラリートーク	大乘寺の文化財 (谷口 出 普及課長) 展示室内で行われるため、常設展示の入場券が必要です。	常設展示室
12/19(日)	月 例 映 画 会	彫る 棟方志功の世界(39分)	ホール

12月の全館休館日は24日(金)~31日(金)です。

北風の浜

平桜和正 昭和6年(1931)~

昭和62年 第19回改組日展
縦162.1 横214.4(cm)



平桜氏は、昭和6年金沢に生まれ、26年金沢美術工芸専門学校を卒業後、一時小中学校の教員を勤め、29年に金沢美術工芸短期大学を修了しました。32年からは、金沢美術工芸大学で後進の指導にあたり、現在は名誉教授として活動されています。山口華楊に師事し、日展を中心に作品を発表、その作風は、控えめでさりげなく、それでいて内面に自己の情念を凝縮したかのような表現が中心で、それらは、北陸の風土を如実に感じさせるものとなっています。

作者が、まだ自己の画風を模索していた昭和20~30年代にかけては、抽象画が流行した時期であり、戦後の日本画も大きな転換期を迎えていました。画面は厚塗りが主流になり、抽象的な画面構成も試みられたりして、作者も一時期そうした動向に影響を受けたようです。しかし、師であった山口華楊の「足下をもっとよく見て描け」という言葉を胸に刻み、生まれ育った郷里の自然のなか

にモチーフを見出して、穏やかに堅実な描写のなかに、作者の個性が発揮されていくことになりました。

この作品では、静かに波が打ち寄せる穏やかな海辺の情景の中で、羽を休める三羽のトンビの鋭い眼光が、画面に緊張感を与えています。そのトンビは、白い波を背景にくっきりと浮かび上がり、構図の重要なポイントとなっているのがわかります。制作にあたっては、トンビがなかなか思うように描けず、野鳥園へ通ったり、浜に魚の残をまいてトンビを招き寄せ物陰に隠れて観察したり、車にぶつかって死んだトンビを拾って写生したりと、さまざまな努力を重ねたといいます。このように作者は、心ゆくまでスケッチを重ね、入念に構想を練り上げて、存在感のある画面を創り出していったのです。

第6展示室で展示中

ミュージアムショップ通信

先頃開催された「香月泰男展」ご覧になられましたか？シベリアシリーズの作品には一点ずつ、作家自身のコメントが書かれており、作品に込められた思いがずしりと伝わってくる展覧会でした。講演会も定員をはるかに超えた300名近くの熱心なファンが来館し、講師である立花隆氏のお話^とに耳を傾けていました。展覧会の図録はおかげさまで完売いたしました。ありがとうございました！

さて、今月は絵はがきを紹介しましょう。来年の干支は酉^とということで、新年のご挨拶にいかがでしょうか？この他にもいくつか鳥をデザインしたはがきがありますのでどうぞ、ご利用ください。



絵はがき(1枚50円) 右 / 色絵雉香炉・色絵雌雉香炉
左 / 色絵鳳凰図平鉢 古九谷

次回の展覧会

特別陳列 加賀藩前田家伝来 能面と能装束
(前田育徳会展示室・第2展示室)
特集 書の世界 さまざまな形象・風雅の筆あと
(第6展示室)
1月4日(火)~30日(日)

休館日：12月24日(金)~31日(金)

石川県立美術館だより 第254号

2004年12月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>